

身近な存在である鏡川の魅力を再発見！

「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第1回講座



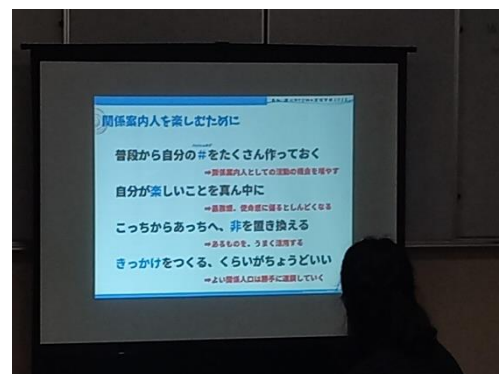
12月4日（日）、高知市土佐山地域の工石山青少年の家にて「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第1回講座を実施しました。

「鏡川に関わってみたい」「高知市内で使われているコミュニティ通貨アプリ『まちのコイン』を使って地域を盛り上げたい」と期待する受講生12人が参加。高知市民にとって当たり前前の存在である鏡川を改めて見直し、自分らしく関わる方法を考える第一歩を踏み出しました。



最初に、高知市環境部新エネルギー・環境政策課から鏡川について改めて説明。高知市民の生活基盤を支える重要な川でありつつ、流域には豊かな自然が残されていることを紹介していただきました。知っているようで知らない鏡川のことを学び直す時間となりました。

メイン講師である桑谷猛さんからは、島根県にて地域活性化に携わってきた経験などから「関係人口からはじまる地域の未来」というタイトルで講演。移住・定住せずとも特定の地域と関わり続ける「関係人口」という存在が地域をいかに元気にしているか、さまざまな事例を紹介しつつお話しいただきました。地域と関わる時のポイントも教えてくださいました。





修了生であり現在鏡川沿いの古民家に暮らす永野正和さんからは、自身がどのように鏡川と関わっているのかを紹介。先輩の話から、受講生のみなさんは1年後の自分の姿を想像したのではないのでしょうか。川に飛び込む映像にはワクワク！

ゲストとして呼び出した、高知市内で編集者として活動するかずさまりやさんからは、ご自身が鏡川流域と関わってみて生まれた変化を報告。編集者として、ただ魅力を発信するだけでなく、人に情報を届けるための視点を持つことの大切さも伝えていただきました。



今回の講座は、コミュニティ通貨アプリ「まちのコイン」を活用して鏡川とつながる方法を探し、多様な関わり方を増やすことが目的のひとつ。「まちのコイン」を運営する面白法人カヤックの中村圭二郎さんから概要を説明いただき、実際にアプリを使う体験をした後、自身の興味関心と鏡川を掛け合わせて「まちのコイン」を絡めた体験を作り上げるワークショップを実施しました。

受講生の皆さんは、最初は緊張した面持ちでしたが、次第に受講生同士打ち解け、講師やゲストの話当真に聞いて、鏡川と自分の接点を考えていらっしやいました。講座修了後のアンケートでは、全員が「とても満足」「やや満足」のいずれかに回答。「鏡川とのかかわりが少しわかった」「楽しいアイデアが浮かびそうな気がしました」など、今後の講座が一層楽しみになるコメントもいただきました。



「鏡川は、高知市内を C のような形で流れている」との紹介を受けて、最後にみんなで「鏡川ポーズ」で記念撮影。

第2回は12月17日（土）、18日（日）の2日間、実際に鏡川の上流から下流をめぐり、五感を使って鏡川を楽しむフィールドワークを予定しています。鏡川流域の自然やそこで活動する人たちから刺激を受け、新たな気づきがたくさん生まれることと思います。